ほっと・エッセイ 190

救急受入体制の強化などで経営改革が進む蕨市立病院

市長　賴髙英雄



物価高騰などの影響で、全国的に多くの病院が赤字経営を余儀なくされるなか、市立病院でも、昨年度、初めて基準外の補助金が必要となる厳しい状況となりましたが、将来にわたり、市民の命と健康を守る地域の中核病院としての役割を果たすため、現在、経営改革の取組を進めています。

まずは、断らない医療を理念に救急受入体制の強化を図り、8月末時点で、救急車の受入件数は、昨年度の318件から664件へ2倍以上に、受入率も54・2%から91・2%に大幅に上昇し、また、産婦人科の充実も図り、1日平均の入院患者数は80人から98人に大きく改善しています。外来でも、午後診療の拡充や膝関節専門外来、物忘れ外来の開設など医療サービスの充実を図り、外来患者数も着実に増加するなど、経営状況を大きく改善させています。

熊本地震をはじめ、全国で地震が多発していますが、市立病院では、今後とも、地域の中核病院としての機能を充実させながら、経営改革を更に進め、耐震化・老朽化対策として必要な建替え事業も着実に進めていく考えです。

市民と市長の面会日

面会日は毎月第1木曜日。今月は1日です。11月は5日です。時間は午後1時～5時を予定しています。

ご希望のかたは秘書広報課（☎433・7701）へご連絡を。